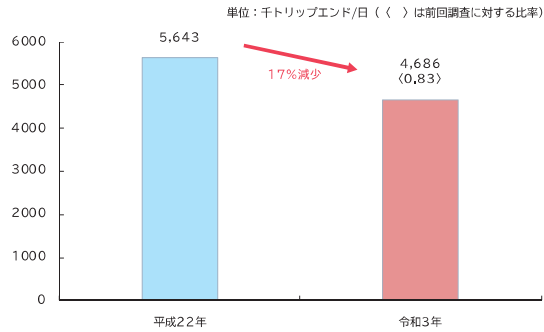


奈良県の人の動き (1/2)

① 平日の総トリップ数と1日1人あたりトリップ数の推移

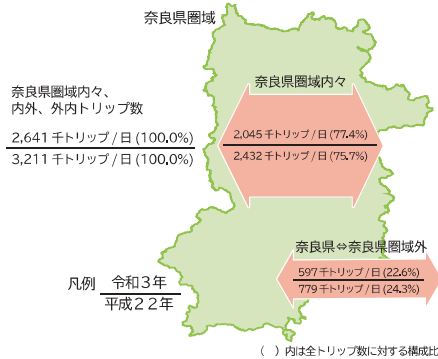
●奈良県の平日の発生集中量は、平成22年から令和3年にかけて17%の減少がみられます。

図1 平日の発生集中量の推移(平成22年～令和3年)



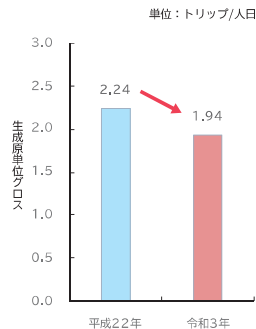
資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

図2 平日の奈良県全体の人の動き(平成22年～令和3年)



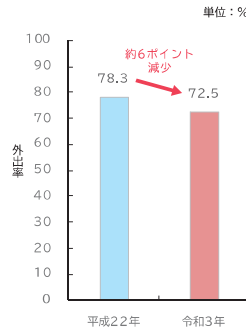
資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

図3 平日の生成原単位の推移(平成22年～令和3年)



資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

図4 平日の外出率の推移(平成22年～令和3年)

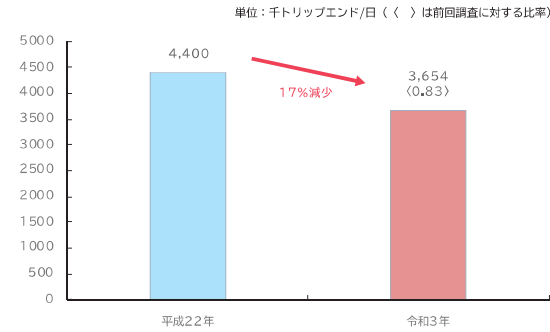


資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

●令和3年において、奈良県に居住する人の平日の1日1人あたりのトリップ数(生成原単位)は1.94トリップ/人日で、平成22年から減少傾向にあります。

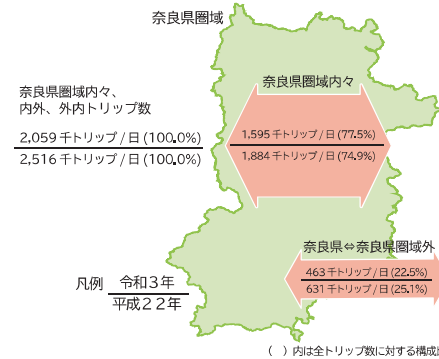
●一方、外出率についても令和3年は72.5%で、平成22年から約6ポイントの減少がみられます。

図5 休日の発生集中量の推移(平成22年～令和3年)



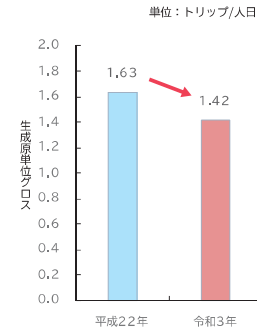
資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

図6 休日の奈良県全体の人の動き(平成22年～令和3年)



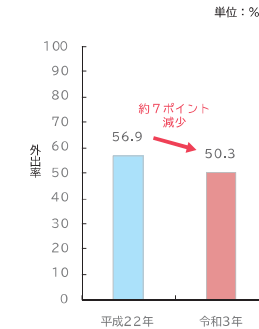
資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

図7 休日の生成原単位の推移(平成22年～令和3年)



資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

図8 休日の外出率の推移(平成22年～令和3年)



資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

② 休日の総トリップ数と1日1人あたりトリップ数の推移

●奈良県の休日の発生集中量は、平成22年から令和3年にかけて、17%の減少となっています。

●令和3年において、休日の奈良県を出発地あるいは到着地とするトリップは2,059千トリップ/日であり、約78%が出発地、到着地ともに奈良県内となっています。

●令和3年において、休日の1日1人あたりのトリップ数(生成原単位)は1.42トリップ/人日、外出率は50.3%であり、平成22年から減少しています。

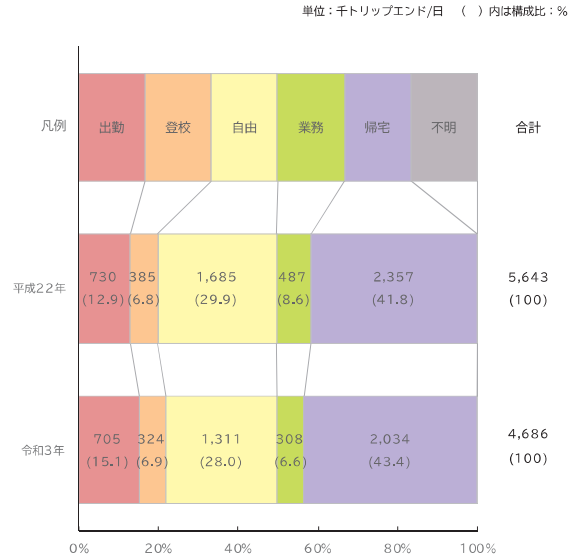
●外出率の減少率は平日よりも大きいです。

奈良県の人の動き (2/2)

③ 平日トリップの目的構成の推移

- 平日トリップの目的構成をみると、平成22年から令和3年にかけて、出勤、登校、帰宅目的が増加、自由目的と業務目的が減少しています。

図9 平日トリップの目的構成比の推移 (平成22年～令和3年)

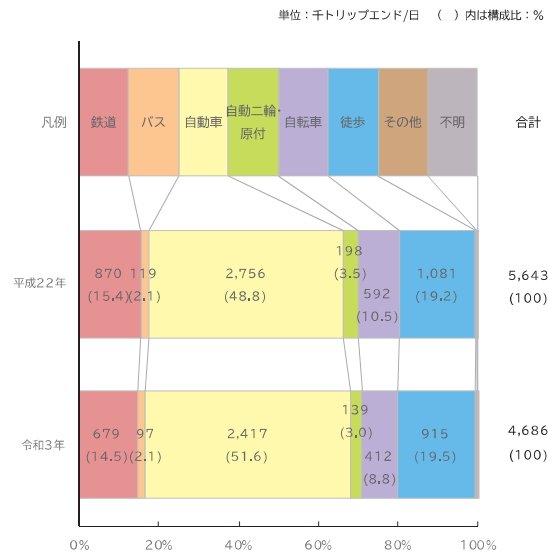


資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

④ 平日トリップの代表交通手段構成の推移

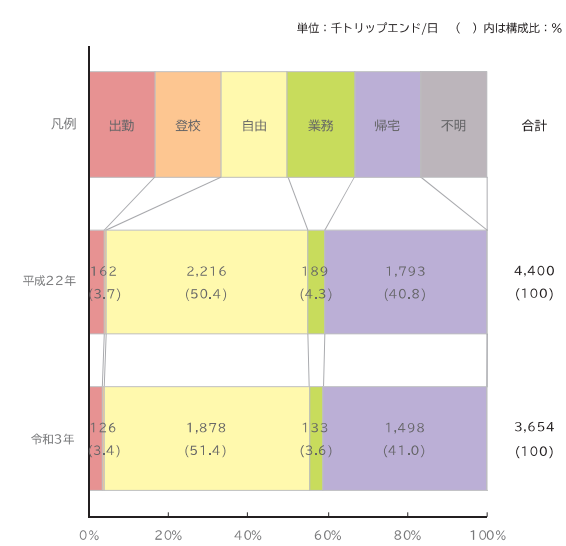
- 令和3年の自動車分担率は51.6%で、平成22年から3ポイント程度増加する一方、鉄道、自動二輪・原付、自転車がわずかに減少しています。
- 公共交通のトリップ数については、鉄道が1ポイント程度減少し、バスの分担率は変化がみられません。

図10 平日トリップの代表交通手段構成比の推移 (平成22年～令和3年)



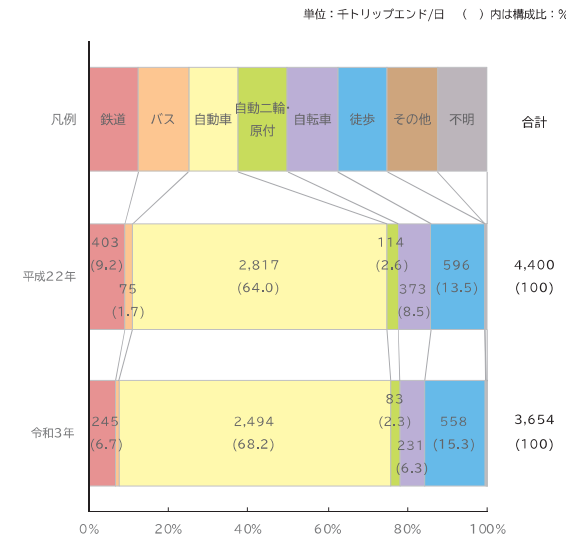
資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

図11 休日トリップの目的構成比の推移 (平成22年～令和3年)



資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

図12 休日トリップの代表交通手段構成比の推移 (平成22年～令和3年)



資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査

⑤ 休日トリップの目的構成の推移

- 休日トリップの目的構成は、平成22年から令和3年にかけて大きな違いはなく、9割以上を自由目的と帰宅目的で占められます。

⑥ 休日トリップの代表交通手段構成の推移

- 休日トリップの代表交通手段構成をみると、自動車分担率が増加しており、令和3年には約68%となっている一方、公共交通や自転車の割合が減少しています。
- 平日トリップの代表交通手段構成と比較すると、平日よりも公共交通の割合が低く、自動車の割合が高くなっています。